

# 県営都市公園大高緑地の将来構想を検討します

半世紀以上にわたり県民の皆様が親しまれてきた大高緑地のリニューアルに向け、将来構想を検討します。

## 1. 大高緑地のあゆみ

戦前	1940年以前	田畑や山林が混在する丘陵地
	1940年	第2次大戦時において中京工業都市の都市防衛を目的とした「環状緑地帯」の一部として都市計画決定

～戦局の緊迫化により整備中断～

戦後	創生期：戦後の整備再開と開園	
	1952年	戦後復興期の都市緑化の一環として整備を再開
	1963年	県営都市公園「大高緑地」として開園（花木園及び園路）
	拡大期：時代のニーズに応じた施設を順次整備	
	1966年	「交通公園」を供用開始 ※県内初
	1969年	「若草山」を利用開始
	1970年	「野球場」を供用開始
	1971年	「プール」を利用開始
	1977年	「テニスコート」を供用開始
	1989年	日本の都市公園100選に選出
	1989年～	「あいち都市緑化フェア」を開催
	1990年	「ゲートボール場」を利用開始
	2001年	「デイキャンプ場」を供用開始
	2008年	「ドッグラン」を利用開始 ※愛知県営都市公園初
	成熟期：イベント開催と民間活力の導入	
	2014年～	「サムライ・ニンジャ・フェスティバル」を開催
	2016年	民間による「ディノアドベンチャー名古屋」が開業
	2021年	「若草山」芝生広場の環境改善（人工芝、排水施設） 「プール」の廃止

## 2. 大高緑地の将来構想

・廃止したプール施設の撤去が完了

・新たな用地の買収がおおむね完了

### 大高緑地のポテンシャルを最大限に活かした将来構想検討

- ・未整備区域の有効活用による新たな魅力の創造  
プール跡地等の未整備区域を有効活用、新たな魅力を創造する
- ・長年親しまれてきた公園の再生によるバリューアップ  
誰もが使いやすく快適に過ごせるよう、時代に合った魅力ある公園へ
- ・機能的な施設配置による利便性の向上  
来園者の動線に配慮した施設配置により、誰もが使いやすい公園へ
- ・優れた交通アクセスを活かした交流機能の強化  
JR・名鉄の鉄道駅や幹線道路から近く、交通至便の強みを活かし、さらに多くの交流を生み出す

## 3. 将来構想検討に向けた取組

環境調査や民間活力の導入も視野に入れたサウンディング調査を実施し、愛知を代表する、魅力あふれる公園づくりを目指します。

### 大高緑地の概要

所在地	名古屋市緑区
供用開始	1963年4月20日
面積	121.2ha
最寄り駅	名鉄名古屋本線 左京山駅、JR東海道線 南大高駅